

◇ ^{しょうのうさい}焼納祭(どんと祭)を終えて... ◇

「焼納は、ご家庭から出た不要物のお焚き上げでは、ありません」

これがいわゆる、神社における焼納祭の「原則」ですが、これまで当社の焼納祭で持ち込まれていたのは、おふだ、おまもり、^{えんぎもの}縁起物、お正月飾りだけではなく、実は数多くの"ご家庭の不要物"が混入され持ち込まれておりました。中には陶器や金属物など燃えないもの、カビのはえた食品がレジ袋や包装紙にくるまれ、また、資源として扱われている「ダンボール」ごとまとめて置かれる...といった制限のない持ち込まれように、その量はこれまで、大型トラック 3 台分の量にまで肥大しました。

いわゆる「ごみ問題」の発展へとつながり、これを^{きぐ}危惧した当社では、本年度より正式にお正月飾りの持ち込みを^{はいし}廃止。対象品は当社おふだ、おまもりといった「三嶋神社^{じゅよひん}授与品」に限定し納め箱を設置致しましたところ、小型トラック 1 台分に加え、その他ダンボールで 2 箱程度の量となり、焼却物を大幅に削減することができました。当社がかねてより切望していた「本来の焼納祭の^あ在り方」にまず一歩近づけたことは、ひとえに皆様のご理解、ご協力があったからこそ、と思っております。

冒頭で、「ごみ問題」を定義致しましたが、最近のお正月飾りは、藁(ワラ)一つで編み込まれるものより、塩化ビニール、そしてプラなどを接着剤で結合し形成されているものが主流で、これはフィルターにかけた専門的な焼却が必要となります。しかしお焚き上げはフィルターにかけない直接的な

焼却の仕方なので煙と焼却灰が舞い上がり、たった1日、午前中の3時間焼却しただけでたくさん
の灰を辺りにまき散らしてしまうものです。舞い上がった灰は最寄りの各地に飛んでいだけでなく
神社境内地、建物や辺り一面にその灰がへばりつき、3月雪解けの時期になってもまだその灰が
残っている、というほどにしつこく、その有害性に気付かされます。

当社の授与品に関してはすべて燃やせるもの、極力有害物質の出ない素材で形成されてはいる
ものの、しかし皆様が持ち込まれるお正月飾りやご家庭から出た不要物、そしてその量の多さこそ
が"実際問題"となっておりましたため、前述のとおり結果となっておりました。これが続くことで根
本的な焼納祭への理解の欠如、現在深刻となっている環境問題、そして実際に焼却作業を行
う方々へ蓄積される健康被害の懸念も予想されました。

よって、当社ではお正月飾り持ち込みを廃止、三嶋神社授与品のみをお焚き上げすることで焼
却物を大幅に削減し、まず不要物持ち込みの不正をなくすこと、且つこれからの環境問題を真剣
に考えること、これが今後の私達に必要な使命であり、同時に「お納め、お返し」がどういう意味
合いを持つかの、「焼納祭への理解」に触れて頂くことで、皆様一人ひとりの、「信仰の在り方」
につなげたい、と思った次第です。

お返しに来ておふだを納めることは、1年のご自身の平穩、無事に感謝すること

お返しをし、新たなおふだを受けられ、また今年1年の活力を得る。

この「感謝する」が皆様の心を豊かにし、その余裕が気持ちを前向きにさせ、保つ心は皆様の体
調や内容も良くする。良き内容とあれば良き友人や仲間、良きパートナーに巡り合うなど、「感謝」

があるからこそ素晴らしきご利益に恵まれるものです。

この一連の「受ける、お返し、お納めする」、という行事はまさに「信仰」であり、皆様の普段の生活からあらゆることへつながっている重要な「行い」と考えます。

とはいえ、「お焚き上げ」、という行為そのものに限度が迫っております。

ほど近い将来、焼納祭は廃止に至るか、その形式が変わっていかなければならない行事の一つでしょう。当社でも、授与品に限定したお焚き上げは一旦実現したものの、それはまだ序章に過ぎません。

袋から取り出し、“授与品だけ”をお納めするようお願いしている「授与品納め箱」には、包装紙にくるんだまま、レジ袋に入れたまま置かれていく方もあり、それらが具体的な“ごみ”になってしまうなど、およそ課題は残ります。当社としては極力ごみを出さない、特に皆様が日頃神棚にお祀りし、手を合わせてきたおふだであるからこそ、ごみと一緒に焼却する、などということは避けたく、そして余分な煙や焼却灰を出さないことが本意にありますので、今後皆様のさらなるご理解、ご協力が必要となります。そのときが来るまで焼納祭を良き方向で続けられれば、と願いつつ、焼納祭の芯である「お納めすることへの感謝の心」を持ち続けて頂きたいと考えております。

八戸 三嶋神社

